

第3-3章 24時間、365日安心できる医療体制づくり

第1節 救急医療への対応

現状と課題

本町には、入院のできる病院・医院がないため、緊急時には救急車で町外の病院へ搬送されている。又、防災基地にヘリポートを有し緊急を要する患者を総合病院等へ搬送することも可能である。

救急時にはすばやい適切な対応が人命を救うため、住民だれもが適切に対応できるように救急時の対応の仕方(心肺蘇生法など)や住民への夜間・休日の救急医療体制の情報提供が必要である。

また、独居世帯に対しては、緊急通報システムの導入により、24時間体制で周辺の協力員に連絡することにより、高齢者を地域で支えるよう努めているが、今後、システムの老朽化による機器更新や協力員の高齢化などにより、迅速な対応を図る上で、体制づくりと維持が課題となっている。

基本方針

- ・安心して暮らせるまちづくりのため、救急医療体制を整備する。
- ・救急時に備えた住民への情報提供を継続して行う。
- ・また、緊急通報システムを今後も維持することとする。

施策の展開

- 1 救急医療体制に関する情報提供のための家庭常備のガイドブックの作成を行う。
- 2 ボランティアグループなどを中心に心肺蘇生法などの救命救急講習を行い、緊急時対応のスキルアップに努める。
- 3 公共施設におけるAED(自動体外式除細動機)の普及充実に努める。
- 4 防災基地(ヘリポート)の有効活用と維持を図る。
- 5 光ファイバーネットワークを活用し、緊急通報システムの再構築について検討を行う。

AED 設置状況

設置施設の名称	設置台数	イベント等への貸し出しの可否	小児用パッドの有無	担当課
江府町総合体育館	1	可	有	教育委員会
江府町立江府中学校	1	可	有	教育委員会
江府町立江府小学校	1	可	有	教育委員会
江府町防災情報センター	1	可	有	教育委員会
江府町立子どもの国保育園	1	可	有	教育委員会
江府町明道児童館	1	可	有	教育委員会
尾之上原多目的集会施設	1	否	無	総務課
江府町総合健康福祉センター	1	可	有	福祉保健課
合計	8	8		

第2節 地域医療体制の充実

現状と課題

保健・医療・福祉の拠点である総合健康福祉センター内の江尾診療所には内科と歯科口腔外科が整備されている。現在、内科では、生活習慣病予防として動脈硬化予防外来及び高血圧・心臓病専門外来を開設している。歯科口腔外科では、歯の治療はもとより歯科口腔ケアの重要性を広く患者に伝達しており、また、定期的な鳥取大学歯科口腔外科の教授の診療により、悪性疾患などの診断、経過観察にあっている。

今後の課題として、地域医療を一層向上させるには、医療スタッフの充実を図る必要がある。

又、内科・歯科口腔外科共に診療施設が手狭になってきており、その対策が必要となっている。

平成12年に現在の江尾診療所が建築された際に導入した医療機器は老朽化がすすんでおり、今後適切に更新を行うことが不可欠となっている。

さらに、近隣の日野病院及び介護老人保健施設並びに江尾診療所との密接な連携が地域医療体制の確立のために必要不可欠であり、相互の情報の共有化をさらに図っていく必要がある。

基本方針

入院施設を持たない町としては、保健・医療・福祉の連携のもと診療所での診療に留まらず、積極的に各地域、各家庭へ自ら出向いていく在宅医療、在宅福祉を基本にしながら医療スタッフの充実を図ることにより、24時間・365日地域住民が安心して暮らせる医療体制づくりを今後も継続していく。

専門医(脳神経内科医)の新規採用と看護師の確保を図る。

施策の展開

- 1 医科の医師二人体制を確立する。
- 2 遊休施設を巡回診療所として利用し、地域医療体制を強化する。
- 3 手狭な歯科口腔外科を移転、改築し、車椅子に対応出来るバリアフリーの歯科口腔外科とする。歯科口腔外科の移転により生じる空間は、医師二人体制に対応できる医科改築を行う。
- 4 慢性的な駐車場不足を解消するため、江尾診療所周辺の整備を行う。
- 5 医療機器の故障により、医療の停滞を招かないため、適切な更新を行う。
- 6 現在行っている各種専門外来は、継続する。
- 7 日野病院との人材交流を進め、組織の活性化を図る。

医療施設資料

区分		平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
施設	江尾診療所	医科・歯科	医科・歯科	医科・歯科	医科・歯科	医科・歯科
人員	江尾診療所	医科医師 1 名 歯科医師 1 名				

年度別受診数

(単位:人)

区分		平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
受診数	医科	8,897	9,999	10,403	10,976	11,168
	歯科	3,711	4,430	5,334	4,609	4,699
計		12,608	14,429	15,737	15,585	15,867

第3節 生活習慣病医療への対応

現状と課題

生活習慣病対策として、病気の早期発見・対策が重要であり、医療と保健分野のさまざまな面で連携を図っていくことが必要である。

現在、江尾診療所内では動脈硬化予防外来、高血圧・心臓病専門外来、認知症専門外来を開設し、鳥取大学医学部との密接な連携とともに、保健スタッフによる栄養指導を中心に対応している。

今後、生活習慣病対策には、相談業務の充実の他、更に運動指導を行う体制充実が必要である。

又、現在、生活習慣病の改善対策は高齢者を中心に行われているのが現状である為、生活習慣病への関心・認識が希薄である生活習慣病予備軍、特に働き盛りの青年・壮年層に今後どのように対応するのが重要課題となっている。

基本方針

- 1 医療と保健分野の密接な連携及び鳥取大学医学部との連携を充実させることにより、更に生活習慣病対策の向上に取り組む。
- 2 青年・壮年層に対し生活習慣病への関心・認識を持たせる啓発。
- 3 現在の栄養指導に加え、運動指導を行うことにより効果的に生活習慣病予防を行う。
- 4 一人一人に対し、より綿密な指導を行えるようスタッフの充実を図る。
- 5 歯科口腔ケアに対する認識を向上させる。

施策の展開

現在、鳥取大学医学部と共同で行っている「鳥取 - 江府スタディ」研究を継続し、生活習慣病対策を充実する。

「鳥取 - 江府スタディ」資料

概 要

研究名称	糖代謝異常と生活習慣の関係に注目した動脈硬化予防のための調査研究
研究期間	平成18年1月28日～平成26年3月31日
本町がこの研究に取り組む目的	糖尿病を中心とした生活習慣病について、本町の地域特性を明らかにするとともに、医学的根拠に基づく、効果的な介入方法を検討する。
内 容	検体採取(血液、尿)及び検体と住民健診問診情報の照合。 従来の老人保健法に基づく判定基準を、病態情報内科学の助言を元に引き下げ(厳しくし)、糖尿病のハイリスク者を抽出。抽出された者を対象に、糖尿病の詳細検査(糖負荷検査)を実施。判定区分別に介入した。
方 法	データ取得方法:住民健診等で調査研究の説明を行い、同意署名を得る。 介入方法:健康教室、江尾診療所動脈硬化予防外来

実績:研究同意者数

(単位:人)

	特定・後期高齢者(基本)健診	二次検診
平成17年度	707	221
平成18年度	626	251
平成19年度	564	136
平成20年度	375	85
平成21年度	397	51

中間評価（平成17年度から平成21年度の4年間にわたる介入効果の検証）

具体的な成果

1. 介入群に一定の改善が認められた。
2. 脳血管疾患・心疾患発症者のリスク保有状況が明らかとなった。
3. 歯周疾患と腎機能の相関関係が明らかとなり、腎機能検査(クレアチニン検査)の有用性が証明された。

第4節 医療費適正化対策

現状と課題

本町は国民健康保険被保険者1人当たりの医療費が県下でも高くなっている。この高医療費の原因は主に入院費にあり、特に病状が重篤化してからの入院及び障害者の長期入院が入院費の大半を占めているのが現状である。

なお、平成22年度をもって厚生労働省の高額医療費指定市町村を決定する地域差指数及びそれに伴う安定化計画の作成義務付けが廃止となる。

今後は、平成25年度を目指し市町村国民健康保険制度の広域化が図られる方向にあり、高医療費の状況を示す基準が示されると推測されるが、本町としては保健・医療・福祉の連携のもと継続的に医療費適正化への取り組みを行う必要がある。

基本方針

現制度下の国民健康保険における一人当たりの医療給付費の1割削減を目指す。

施策の展開

高医療費の実態及び医療費のしくみに関する研修会
適正な医療機関等のかかり方・利用の研修・啓発
「かかりつけ医」「かかりつけ薬局」の普及啓発
健診の充実等さらなる早期発見体制の確立及び普及
予防接種(インフルエンザ・肺炎球菌・子宮頸がんワクチン)の普及
高医療費の実態と今後の対応についての意識啓発・研修
重複多重受診の適正化の推進

国民健康保険 医療費データ(年度別:H17~H21)

(単位:円)

		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
医 科	入 院	318,161,080	305,175,524	347,384,618	155,337,782	134,734,664
	入 院 外	217,598,740	214,961,570	215,750,310	95,667,080	92,080,650
歯 科	入 院		3,032,136	401,240		
	入 院 外	26,287,250	28,464,510	32,019,800	19,905,220	17,761,750
調 剤		137,604,290	143,675,840	153,426,060	67,390,760	68,423,690
訪 問 看 護		1,289,100	1,506,350	2,110,600	1,010,200	679,250
計		700,940,460	696,815,930	751,092,628	339,311,042	313,680,004

平成20年度より後期高齢者医療制度開始

第5節 将来のスタッフの育成

現状と課題

江尾診療所の特色は、鳥取大学医学部との密接な連携を図っている点である。特に鳥取大学医学部の学生や研修医の育成の場を提供し、医療技術の習得に留まることなく、地域住民の生活実態を肌身で感じる研修・研究を行っている。

基本方針

鳥取大学医学部との連携のもと、今後も、将来の医療スタッフの育成の場を提供するとともに、地域医療を担う人材育成を図り、将来にわたる江尾診療所への支援、スタッフ確保を目指す。

施策の展開

地域医療の人材育成のため遊休施設を利用し、地域医療研修センターを開設する。

平成22年10月に開講した鳥取大学医学部地域医療学講座と連携し、医療スタッフの人材育成を図る。